コロナ禍でも学生が臨地をイメージできる老年看護学実習IIの工夫

淑徳大学看護栄養学部　永田文子

淑徳大学看護栄養学部看護学科では老年看護学の実習 4 単位を、2 年次前期に老年看護学実習Iとして 2 単位、3 年次後期に老年看護学実習IIとして 2 単位実施してきた。老年看護学実習Iは地域で生活している高齢者を対象者とし、老年看護学実習IIは特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、サービス付き高齢者向け住宅で要介護高齢者を対象者としている。従来の老年看護学実習IIでは初日のオリエンテーションと最終日の学びの共有とまとめは学内で行い、臨地（施設）に 8 日間行っていた。

2020 年度に千葉県で発出された COVID-19 による緊急事態宣言は 2020 年 4 月 7 日～5 月 25 日、2 回目は 2021 年 1 月 8 日～3 月 21 日で、7 月の時点で全ての実習先から臨地の受け入れはできないと連絡があった。そのため、老年看護学領域の教員 3 人で実施方法を検討した結果、これまでの学生と同様の質を保つために、実習目的・目標は変更せずに、できるかぎり臨地をイメージできる工夫をすることにした。様々な事情から学内実習は不可能で、学生の自宅から遠隔ツールを大学や施設とつなぐ遠隔実習となった。

従来の実習では、学生は複数の疾患とともに生活する要介護高齢者一人を担当する。施設実習 4 日目までにケアプランを作成し実習指導者から助言を受け、施設実習 5 日目から 8 日目は作成したケアプランをもとにケアを提供していた。高齢者の QOL を向上するための個人または集団のレクリエーション実施もケアプランに含んでいた。私たちの工夫のいくつかを紹介する。

1）実習 1 日目に教員が施設に行く、もしくは施設の人に依頼するなどで遠隔ツールを接続し、高齢者と直接コミュニケーションをとる機会を設けた。従来のケアプランの作成を行うために、事前に 1 施設につき 1～2 人の高齢者の情報を教員が得て学生に提示し、学生はその高齢者のケアプランを作成した。ただし、紙面上の情報のみでは学内で実施する事例と同じなので、高齢者と直接コミュニケーションをとり情報を得る機会とした。

2）遠隔ツールを接続し、作成したケアプランを実習指導者から助言を受ける機会を設けた。

3）従来実施してきた高齢者の QOL を向上するための個人または集団のレクリエーションを、遠隔ツールを接続してリアルタイムで実施する、もしくはレクリエーション動画を撮影して高齢者に見ていただき、その反応を遠隔ツールで観察する機会を設けた。これにより、学生が作成したケアプランは部分的に実施して結果を確認し、評価することができた。

4）臨地でのケアをイメージできるように複数の動画を作成した。例として、トイレでの排泄介助、特殊浴槽での入浴の介助、レクリエーションに使う道具等の動画を作成した。

5）施設の方にタブレットを持ち施設内をまわっていただきながら施設のオリエンテーションを受け、施設内をイメージしやすいようにした。

6）その他の内容は当日発表するが、実習アンケートによる満足度は 5 点満点で従来の実習をした 2019 年度 4.4、2020 年度 4.3 とほぼ変化はなかった。